News

学部長・研究科長紹介

【人文学部長】
服部 裕幸 教授
専攻分野：倫理学、哲学

【外国語学部長】
鈴木 達也 教授
専攻分野：言語学[統語論]、英語学

【経済学部長】
中矢 俊博 教授
専攻分野：経済学史

【経営学部長】
赤壁 弘康 教授
専攻分野：金融工学

【法学部長】
副田 隆重 教授
専攻分野：民法

【総合政策学部長】
山田 望 教授
専攻分野：文明論、キリスト教教理史

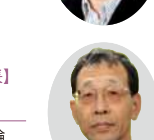
【情報理工学部長】
鈴木 敦夫 教授
専攻分野：システム工学、オペレーションズ・リサーチ

【短期大学部長】
山田 泰広 教授
専攻分野：英文学

【人間文化研究科長】
大塚 達朗 教授
専攻分野：考古学

【国際地域文化研究科長】
細谷 博 教授
専攻分野：国文学［近代・現代］

【経済学部研究科長】
上田 薫 教授
専攻分野：産業組織論


【ビジネス研究科長】
白木 俊彦 教授
専攻分野：財務会計論、国際会計論

【法務研究科長】
丸山 雅夫 教授
専攻分野：刑事法

【総合政策研究科長】
田平 正典 教授
専攻分野：財政学

【数理情報研究科長】
腰塚 武志 教授
専攻分野：都市工学、都市のオペレーションズ・リサーチ

Special events

7.12
南山大学レストルーム提案プロジェクト

ビジネススクールでは有力企業5社と連携し、南山大学のレストルーム改修について大学院生が企画・立案する授業を行っています。大学内を調査し学生の視点から考えた改修計画の最終報告を実施しました。

7.13
ボリビア大使による講演

スペイン・ラテンアメリカ学科（旧：イスパニヤ学科）の卒業生である、ボリビアの渡邉利夫大使による講演が行われました。ボリビアの歴史から大使館のミッションなど、学生達は大変興味深く講演を聞いていました。

7.15
オープンキャンパス

オープンキャンパスでは、名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス併せて、6,279名にご来場いただけました。模擬授業や学部の相談コーナーだけでなく、昨年度に引き続き南山大学卒業生によるトークライブを実施。また、「店の利益をどうやって上げるのか？」というゲーム感覚で学べる経営学部の企画など、在学生が主体となって学部を紹介する企画に人気が集まりました。また、過去の入試問題（リスニング）に挑戦できる、スマートフォンアプリを開発しました。無料でダウンロードできますので、是非お試しください。

>>「南山大学 英語リスニングテストにチャレンジ！」で検索できます。

7.21-22・8.4-5
「大学で、未来の自分を探してみよう！」

南山大学の知的財産を地域に還元する事を目的として小学校4年生〜6年生までを対象とした連続講座、「大学で、未来の自分を探してみよう！」（全6回）を開催しました。第1回目の、「ロボットを使って、理科の面白さを知ろう」では、学生達が制作したロボットを実際に動かしてもらい、ものづくりの面白さを知ってもらいました。また、第2回目の「宝のありかを見つけよう！」では、宝島の地図上で宝を探し当てるため、配られた情報カードを元にコミュニケーションを円滑にするグループワークを行いました。参加した小学生たちのアンケートには、「とても、楽しかった！勉強になった」と感想をいただきました。

7.13
経営学部の石垣ゼミ生が、飲食店とコラボレーション。

南山大学経営学部の学生と豊田市のベーカリーカフェ「Tres Tres Bon！（トレトレボン）」が共同で、健康志向や女性向けを意識したパンを開発しました。ダイエット効果があるナッツを多く入れたパンや、冷やして食べるレモンジュレパンなど6種類を商品化し、豊田市の松坂屋で販売しました。

Special events Schedule

10.8
1日体験入学会

10月8日（月・祝）に「1日体験入学会」が開催されます。この日は授業日であるため、大学生と一緒に授業を受けることができる高校生向けのイベントです。

10.13
野外宗教劇「受難」

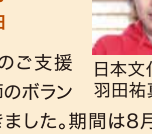
10月13日（土）18：00〜［雨天延期10月20日（土）］、名古屋キャンパスのパッヘ・スクエアを舞台に、今年で46回目となる野外宗教劇「受難」が上演されます。野外宗教劇「受難」は、カトリック大学である本学を代表する伝統行事です。

11.3-6
大学祭

11月3日、4日は、瀬戸キャンパスの聖南祭。また3日から6日は名古屋キャンパスの大学祭になります。毎年多くの模擬店が出店し、グリーンエリアではコンサートなどの企画が盛りだくさん。そして、名古屋キャンパスの今年のテーマは「パズル」。そこには、私たち一人ひとりがかけがえのないピースとして、学祭という素敵なパズルを完成させようという思いが込められています。

南山大生 ボランティア活動
私が見た、福島

活動期間 8月19日〜26日


日本文化学科3年
羽田祐真

今回私は、様々な方のご支援を受け、福島で家庭教師のボランティアをさせていただきました。期間は8月19日から26日の一週間で、愛知県内の大学生と静岡県内の大学生合わせて10名が参加しました。小中学生を対象に、福島市内近郊の「しのぶ台」、「佐原」、「安達」という三つの仮設に別れてボランティアへ行き、それぞれ主に仮設住宅の集会所内で学習支援を行ったり、室内ゲームをして過ごしたりしました。これだけを書くと、普段各都道府県で行われている学習支援ボランティアと何ら変わりないように思われることでしょう。しかし、今回訪れた仮設住宅では、他とは根本的に違う問題をかかえていました。

それは、放射能の問題です。

山や川が目の前にあるのに、外に出て遊ぶことも、自然に触れることもできないのです。私たちのボランティアは、閉鎖された空間の中で、その地で「私たちにできること」という目標に全力を注ぎました。今回のように、室内からほとんど出る事ができない子供たちに接すると、同じ日本にいてもどこか自分たちとは違う世界に住んでしまっているのではないか、という感覚に囚われました。福島でのボランティアでは自分たちにできることの少なさを感じましたが、だからこそ「私たちにできることは何か」と、いうことを常に考えていくことが大事だと思います。

Information

◆ 後援会定例評議員会

6月30日（土）ホテル名古屋ガーデンパレスにおいて、南山大学後援会定例評議員会が開催されました。南山大学後援会は在学生の父母等によって組織されており、当日は理事・評議員に就任いただいている役員の皆様から133名の方に出席いただきました。

議事においては、1）2011年度事業報告および決算報告について　2）役員の選任について　3）2012年度事業計画および予算について決議され、2012年度の事業内容として、9月29日（土）名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて第40回「父母の集い」を開催することが決定されました。

後援会Webページ
http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kouenkai/index.html

後援会貸借対照表　2012年3月31日現在（単位：円）

借方		貸方	
預金	142,385,431	課外活動援助基金	99,426,089
		事故対策基金	41,060,798
		次期繰越金	1,898,544
合計	142,385,431	合計	142,385,431

後援会収支計算書および予算書　（単位：円）

	科目	2011年度決算	2012年度予算
収入の部	前期繰越金	1,684,024	1,898,544
	入会金	2,316,000	2,336,000
	会費	188,920,000	184,110,000
	預金利息	0	0
	基金運用利息	404,303	278,000
	合計	193,324,327	188,622,544
支出の部	教育・研究活動等支援援助金	178,000,000	173,000,000
	留学生支援活動援助費	74,979,000	84,547,000
	教育研究図書援助費	55,021,000	43,453,000
	広報活動援助費	10,000,000	10,000,000
	課外活動援助費	31,000,000	28,000,000
	就職指導活動費	7,000,000	7,000,000
	後援会活動費	9,021,480	9,285,000
	父母の集い	1,597,906	1,758,000
	就職活動援助費	1,200,000	1,200,000
	広報費	5,298,942	5,427,000
	事務費	924,632	900,000
	課外活動援助基金積立	4,000,000	4,000,000
	課外活動援助基金積立利息	281,489	196,000
	事故対策基金積立利息	122,814	82,000
	予備費	0	400,000
	次期繰越金	1,898,544	1,659,544
	合計	193,324,327	188,622,544

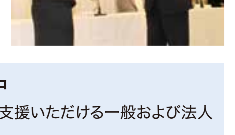
《基金内訳》　（単位：円）

課外活動援助基金		事故対策基金	
前期繰越金	95,144,600	前期繰越金	40,937,984
当年度積立金	4,000,000	当年度積立金	0
運用利息	281,489	運用利息	122,814
合計	99,426,089	合計	41,060,798

◆ 友の会評議員会・総会

7月18日（水）ホテル名古屋ガーデンパレスにおいて、南山大学友の会評議員会・総会が開催されました。友の会は南山大学を支援する地域社会の一般および法人会員によって組織されており、本年3月31日現在の会員数は一般会員244名、法人会員113社となっています。

総会では、1）2011年度事業報告および決算報告について　2）2012年度事業計画および予算について決議され、それぞれ承認されました。議事終了後、今年度の友の会給付奨学金を受給する外国人留学生および日本人の派遣奨学生も参加させていただき、安井義博会長より奨学生採用通知書が授与されました。また、その後行われた懇親会の席においても、留学生と友の会会員の皆様との間で積極的な交流が図られ、友の会会員の皆様より多くの温かい励ましのお言葉を頂戴いたしました。



南山大学友の会会員募集中
南山大学の教育・研究活動にご支援いただける一般および法人会員を募集しております。
［年会費］一般会員 1口 10,000円　法人会員 1口 30,000円
※何口でもお申込みいただけます。
友の会Webページ
http://www.nanzan-u.ac.jp/tomonokai/index.html

◆ 同窓会設立60周年記念「式典・講演会・懇親会」

7月1日（日）ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて南山大学同窓会設立60周年記念「式典・講演会・懇親会」が盛大に開催されました。

式典では森本同窓会長の挨拶、カルマノ学長の祝辞に続き、同窓会から南山大学へ寄付金5,000万円を贈呈いただきました。その後、功労者へ感謝状が贈られました。

雅楽師の東儀秀樹氏による「日本の伝統文化と世界交流」と題する講演会では雅楽器の演奏もあり古来の雅な調べが響き渡りました。

約1,000名が参加した懇親会では学生時代を懐かしむ同窓生や恩師との語らいで会場は大いに盛り上がり、最後は参加者全員による南山大学学生歌斉唱で締めくくられました。

寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

南山大学同窓会 様
㈱クリエイティブエージェンシー代表取締役
羽 賀 嘉 裕 様
株式会社名古屋銀行 様
河合信行 様
大宮淳一 様
上野直人 様

南山大学

発行 学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone：052-832-3113（直通）
E-mail:gaku-koho@nanzan.ac.jp
http://www.nanzan-u.ac.jp/

2012.9.30

南山大学広報誌
NANZAN bulletin vol.182
2012.9.30

現地で学ぶ。

NANZAN UNIVERSITY

私の研究

学校の危機管理

岡田 順一

おかだ・じゅんいち
人文学部心理人間学科 教授
専攻分野は「教育経営学」「生徒指導論」。
長期研究テーマは
「学校の危機管理と校長のリーダーシップの在り方」。
短期研究テーマは
「今日の生徒指導上の諸問題の研究」。
主な担当科目は
「生徒指導論」、「教育の方法・技術論」。

私は、大学の教員としては珍しい経歴を辿ってきました。高等学校の理科（物理）教師として11年間勤務した後、愛知県教育委員会事務局に入り、県教育センターや県教委高等学校教育課（指導主事、主査、課長補佐、主幹）に計14年間在籍し、教育行政組織を内側から学ぶ機会を得ました。その後、県立高等学校の校長（大府東、中村、旭丘）として計11年間勤め、学校経営に関して多様な経験をする機会に恵まれました。その最後の3年間では、愛知県高等学校野球連盟会長として、本県勢の夏の甲子園全国制覇に立ち会うこともできました。

これらの実践経験を教育に関する研究に生かすことができたらとの思いから、現在は、学校の危機管理と校長のリーダーシップの在り方について、研究をしています。学校は、児童生徒・教員・保護者・地域・施設設備が、組織的・有機的に結びついて成立しています。そして日常的に、様々な危機に直面しています。その危機に適切に対処し克服するための重要な鍵は、校長のリーダーシップの在り方にあります。東日本大震災において、子どもたちの命が守られた学校の事例からも多くの教訓が得られています。

『愛知の高校野球全記録』巻頭言
2008.12

『教師のリーダーシップと学校改革』講演
於 日本教育会愛知県支部評議員会　2011.6

私のクラス

スペイン語の基礎作りを目指して

泉水 浩隆

せんすい・ひろたか
外国語学部
スペイン・ラテンアメリカ学科 准教授
専攻分野は「スペイン語学、スペイン語教育」
研究テーマは「スペイン語イントネーションの知覚」
「教材分析および教室における各種機材の利用とその応用」
担当科目は「基礎スペイン語I/II文法」「スペイン語I/II文法」
「スペイン語学特殊研究」「ポルトガル語比較文法」
主な著書は『基礎から学ぶスペイン語』（SGEL、2011）、
『スペイン語キックオフ』（白水社、2010）
『コンティーゴ1・2』（第三書房、2009）など

私はスペイン語学、なかでもスペイン語の音声に関する研究を行っていますが、授業では外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科に入学したすべての学生が履修しなければならない1年生および2年生のスペイン語文法を担当しています。

これらの科目は、本学科で学ぶために必要不可欠であるスペイン語の基盤を作るための重要な一部であり、これをきちんとマスターするかどうかが大学生活4年間の意義を左右しかねないほどの影響力を持つものです。

ですので、ようやく入試を乗り越え、希望に満ちた大学生活を送ろうとしている新入生には、酷であろうことは重々承知しつつ、予復習は当然、次から次へと課題が出され、小テストを行っては基準点に達しないと追試、学期末試験もハード、ついでに長期休暇中にも宿題が出て、休み明けにはその復習テスト…という「鬼のスペラテ」生活にどっぷりひたっていただくようにしています。2年生も基本的には同じようなペースで学習が続きます。

こうした生活に健気に耐えて身につけたスペイン語を駆使しながら、スペインで行われる「スペイン語実習」で自己表現したり、専門科目の授業で文献を読みこなしたりしている学生の姿はとても頼もしいものです。その姿を見たいがために、今日も「はい、じゃあこれ次までの課題ね」と教室でにこやかに宣言しています。

キャリアサポート・就職支援プログラム（名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス）

	キャリアサポートプログラム	就職支援プログラム
10月	○キャリア入門B－キャリアを考えよう！－ ○キャリア入門C（業界・職種研究会） ○一般常識テスト・職務適性テスト ○ビジネスマナー講座（接遇） ○ビジネスマナー講座（コミュニケーション・電話対応）	○SPI模試 ○就職講座（企業研究、自己PR、志望動機、エントリーシートの書き方※） ※瀬戸キャンパスは11月に実施 ○Uターンガイダンス ※瀬戸キャンパスは9月に実施済み ○グループ選考対策講座
11月	○キャリア入門B－キャリアを考えよう！－ ○キャリア入門C（業界・職種研究会） ○働く現場見学ツアー	○就職講座（ビジネスマナー） ○SPIフォローアップ講座
12月		○（第3回）就職ガイダンス

FEATURE ARTICLE

人類文化学科

インドフィールドワーク

～インド・ヴァディパッティ村で、現地の文化と社会を肌で学ぶ2週間～

長い歴史の中でカースト制度に基づく文化や社会を形成してきたインド。しかし近年、経済発展とともに、コミュニティの様子や人々の暮らしが急速に変化しつつあります。「変わりゆくインド」で今、何が起こり、人々はどんな意識を持っているのか。現地の人々と触れ合いながら、インド、そして自分自身を探究する2週間のフィールドワークを紹介します。

基本情報

滞在地域	インド最南部の東側に位置するタミル・ナードゥ州の州都
	チェンナイから470Km、マドゥライ地区ヴァディパッティ村
期　　間	夏季休暇の約2週間（2012年度は8／15～30の15泊16日）
参加学生	「インドフィールドワーク」履修者2～4年　約20名（2012年度は26名）
参加費用	約24万円

スケジュール（8月実施）

1日目	チェンナイ空港到着	ホテル泊
2日目	マドラス大学で文化交流会	ホテル泊
3日目	ロヨラカレッジにて研究発表会、夜ヴァディパッティ村へ移動	バス中泊
4日目	ヴァディパッティ村到着　オリエンテーション	神言会施設泊
5～7日目	グループ単位で集落に住む全家庭でアンケート調査を実施	↓
8日目	全体で調査の振り返りとデータ整理・各自の研究の準備	↓
9～11日目	グループ単位でそれぞれの研究テーマに基づいて実地調査	↓
12日目	マドゥライ研修	↓
13日目	ティルッチ、タンジャウール研修	チェンナイへ移動 列車中泊
14～15日目	ロヨラカレッジにて現地学生と調査結果のまとめ、チェンナイ研修	ホテル泊
16日目	日本に向け出発、帰国	ホテル泊

異なる信仰、カーストの人々が共存するインドで多様性社会を体感。

多様なカーストが共存するヴァディパッティ村では、学生たちは自分たちの足で情報を集め、調査研究を進めます。調査内容は、カースト、宗教、教育、食事、祭り、装飾品、結婚などさまざま。引率するサガヤラージ先生は、次のように語ります。「人類学においては現場こそが学びの場。学術書や文献といった別の人の視点や価値観のフィルターを通さない、現地の『生の情報』を集め、独自の視点から研究を進めることが重要です。とはいえ調査は困難の連続。時間に大らかな現地学生との共同作業、交通や情報手段の不便さなどは日本人には不自由に感じられますが、現地の人にとっては当たり前のこと。それを含めて、現地の文化や社会を丸ごと受け入れる寛容さを養うことも多様性社会を学ぶ意義のひとつです。同時に、とても親切で温かな現地の人々との交流を通して、生きる意味や人生の価値観を見つめ直す学生も少なくありません。フィールドワークの目的は、研究テーマを入り口に、現地に生きる人々の本質を理解すること。それは結局、自分という人間や生き方を見つめることに繋がるのです。」

会話に加え周辺環境も貴重なデータ。直接的な調査で観察力を養う。

現地での調査は基本的に、インド人学生1人と日本人学生2人の3人1組のグループ単位で行います。たとえば、各家庭や施設を訪問して行う調査では、インド人学生が聞き取り調査を進める一方で、日本人学生は調査対象となる人や家、施設、周辺環境の観察に励みます。聞き手によって回答が変わる場合や、周囲の状況によって正確な回答が得られないことも考えられるため、誰が尋ねて、誰が答えたか。周りにはどんな人がいたかがとても重要になるのです。また、家はコンクリ造りかハット（小屋）か、あるいは調度品、電化製品、服装はどんな様子か、細かく観察することで生活レベルやクラスがわかり、より具体的で精度の高いデータに繋がります。目の前に広がる現実すべてを学びの対象と捉え、その場の状況や変化を敏感にキャッチする感性を鍛えることも、フィールドワークならではの学びと言えるでしょう。

インド人学生、人々との交流で英語、タミル語の運用能力を磨く。

フィールドワークの事前学習として、春学期にインドの文化や経済、宗教、地理などを総合的に学ぶほか、簡単なタミル語と英語の集中講座を毎週1回開講し、スキルアップを図ります。英語は、現地学生との交流のベースとなる言語なので、一定のレベルが必要です。約2週間のスケジュールでは、村での実地調査のほか、研究発表会もあります。これは、同じテーマについて日本とインド、それぞれの学生が自国についてプレゼンテーションし、互いの国の理解を深める目的があります。

フィールドワーク+前後の学習で総合的な研究リテラシーを習得。

帰国後の授業では、現地調査により収集したデータを各自で分析し報告書を作製して各方面に配布します。日本だけでなく、現地にも配布するため、英語での要訳も添えます。そして各自の研究成果を様々なイベントで発表します。

インドの全体像を捉えながら、自分なりの研究テーマを見つける「事前学習」、現地での「調査」、収集したデータを分析して報告書にまとめプレゼンテーションする「事後学習」。3ステップで学ぶ一連のスキルは、あらゆる学術研究に通じる手法です。インドとのフィールドワークでは、問題発見・解決能力、論理的思考力、グローバルなコミュニケーション能力を総合的に身につけることができるのです。

2011年度決算・2012年度予算について

2011年4月から、南山大学短期大学部がR棟（新校舎）を中心に教育・研究活動を開始した。同時に英語教育センター、ワールドプラザ、国際教育センターが移設され、新たにジャパンプラザもオープンし、国際化推進の拠点として、様々な取り組みが始まっている。また、500名収容のフラッテンホールも整備され、オープンキャンパス、父母の集いなどの式典や、各種講演会・研究会など、諸活動に利用されている。さらにR棟地下1階には2013年秋のリニューアルオープンに向けて、人類学博物館の基本・詳細設計が進行している。

R棟建設に伴う学内整備として、キャリア支援室と保健室を移転した。キャリア支援室は、学生および企業人事担当者の利便性を考慮して第2研究室棟に移転した。手狭になっていた保健室はD棟に移転し、1階部分を事務室に、2階部分を学生相談室に改装した。名古屋キャンパスの学内ネットワーク整備（4年計画）については、2011年度から更新を開始した。瀬戸キャンパス開設（2000年4月）に伴い、学生数の関係から外部施設を利用して入学式・卒業式をおこなってきたが、2011年度から入学式・卒業式を2部制にすることにより学内体育館で開催した。

省エネへの取り組みとして、大学内照明のLED化が検討され2012年4月から外灯および一部建物内をLED化して検証を進めている。LED化による効果が確認できれば、今後は省エネ対策の一方策として全学的にLED化が進むこととなる。

旧南山短期大学の跡地整備については、校舎を取り壊しテニスコートとし、そのまま残した体育館とともに南山大学、南山高中校（男子部・女子部）の教育活動の場として供用を開始した。校舎取り壊しや図書の除籍等により基本金取崩額1,055百万円が発生した。瀬戸キャンパスにおいては、企業からの借用により運用してきた留学生施設「第1交流会館」の、土地・建物の全てを購入し、南山大学の資産とした。

本学では、「NANZAN Bulletin」「南山大学概要」「南山大学公式webページ」において財政状況を公開し、透明性確保に努めている。今回は、2011年度決算および2012年度予算について、財務諸表をもとに説明させていただく。なお、2011年度決算および2012年度予算ともに、南山大学、南山大学短期大学部を合わせた計算書になっている。

2011年度決算について

【南山大学】

第1表は、資金収支計算書であり、本学における1年間の活動に伴う収入と支出の資金の記録である。収入の部の前年度繰越支払資金（30,073百万円）と、支出の部の次年度繰越支払資金（31,178百万円）の差額は1,105百万円であり、これが2011年度の諸活動による資金の増加額である。

収入のうち、決算額が予算額を上回っている主なものとしては、補助金収入、資産運用収入、雑収入がある。学生納付金収入は、授業料と施設設備費は増額となったものの、実験実習料と教育実習料が減額となったことにより、学生納付金収入は10百万円の減額となった。特に実験実習料が16百万円の減額となったが、これは参加者の減少のためである。学生納付金収入の基となる学生数は、2012年5月1日現在の在籍者数（短期大学部を除く）は9,835名と5年前の在籍者数9,833名に対してほぼ同数であった。入学検定料の基となる受験者数は、2012年度入試は20,882名（大学院および短期大学部も含む）で、5年前に比べ2,013名減（8.8%減）であった。今後も受験者増加に向けて全学を挙げて取り組む所存である。学生納付金収入に次いで大きな収入源である補助金収入は、9百万円の増額となった。理由は、2011年度から国庫補助金の補助項目が大きく見直されたためであり、例えば2010年度まで特別補助項目であった「大学院教育研究高度化支援メニュー」等いくつかの項目が一般補助項目に組み込まれ、それ以外の特別補助項目は全て廃止され、新たな項目が追加された。この見直しにより補助金収入全体では増額となった。今後も特別補助金獲得のために更なる努力を続ける。

一方、支出面では人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出ともに予算額内で収めることができた。瀬戸キャンパス「第1交流会館」の土地・建物の購入や、旧南山短期大学の跡地整備などを含め、可能な限り教育・研究環境の充実に努めた。なお、例年、南山学園の設立母体である神言修道会から、本学に勤務する神言修道会会員の人件費節約額として本学への財政支援がなされている。2011年度は総額50百万円の援助があり、パッへ研究奨励金等の原資として充当した。

第1表の資金収支計算書が、本学の資金にかかる収入および支出の顛末を表しているのに対し、第2表の消費収支計算書では、本学の経営状態が健全かどうかを示すための収支状況を表す。帰属収入（負債とはならない収入13,879百万円）から、基本金組入額（設備投資等に充当される額1,491百万円）を控除した残額を消費収入といい（12,388百万円）、この消費収入と、純資産の減少をもたらす消費支出（12,597百万円）との差額は旧南山短期大学の校舎取り壊しおよび図書の処分など資産処分（資産処分差額512百万円）したうえで、209百万円の消費支出超過となった。また、旧南山短期大学の資産を処分したことによる基本金取崩額1,055百万円があったことにより、翌年度繰越消費収入超過額は846百万円増加することとなった。

第3表の貸借対照表は、2012年3月31日現在における総資産、負債、自己資金（基本金+翌年度繰越消費収支差額）の状態を表わしており、総資産=負債+自己資金（基本金+翌年度繰越消費収支差額）となる。資産の部では、有形固定資産が旧南山短期大学の校舎取り壊しにより948百万円減少、その他の固定資産が1,037百万円増加したことにより固定資産は89百万円増加した。さらに現金預金の増加等により流動資産が1,146百万円増加した。この結果、総資産は1,235百万円増加となった。他方、負債が47百万円減少となった。基本金が436百万円増加したことと翌年度繰越消費収入超過額が846百万円増加したことにより、自己資金は1,282百万円増加となった。これにより負債と自己資金の合計は1,235百万円の増加となった。

2012年度予算について

【南山大学】

2012年度予算において、学生納付金は前年度に引き続き据え置きとした。本学においては帰属収入の79.0%が学生納付金であり、大幅な増収は望めないため、学生納付金以外の外部資金の獲得のため更なる努力を続けていく。2012年度は、2011年度からの継続事業である「人類学博物館リニューアル事業」や「国際化推進事業の充実」等に取り組むこととなる。

2012年度の主な事業計画は以下のとおりである。

1.人類学博物館リニューアル事業

2013年秋にR棟地下にリニューアルオープンする。2011年度に基本・詳細設計を終え、2012年度は本格的に着工する。

2. 南山大学国際化推進事業

2012年度から、英語で講義する科目を体系化した「国際科目群」がスタートする。外国人留学生別科ではサマースクールや新カリキュラムが導入され国際交流推進を図る。

3. 学内環境整備事業

名古屋キャンパスおよび瀬戸キャンパスにおける空調機器・照明機器の交換、グラウンド整備、トイレ改修などの環境整備事業を順次進めていく。

4.省エネ対策事業

2012年4月に導入した外灯および一部建物内のLED化の検証結果に基づき全学的に照明機器のLED化を検討する。

本学では、私立大学としての公共性と説明責任を認識し、従来から財務改善に努めるとともに、財務状況を広く公表しており、引き続きこの方針を維持していく所存である。今後ともご理解、ご支援を賜りたい。

（大学事務部長　沢口定雄）

南山大学

第1表　2011年度 資金収支計算書（2011年4月1日から2012年3月31日まで）（単位：千円）

支出の部

科目	予算額	決算額
人件費支出	7,214,425	6,969,827
（教員人件費）	(5,005,563)	(4,843,635)
（職員人件費）	(1,686,362)	(1,605,264)
（退職金）	(522,500)	(520,928)
教育研究経費支出	2,903,277	2,663,090
管理経費支出	842,195	822,463
借入金等利息支出	60,597	60,593
借入金等返済支出	30,000	30,000
施設関係支出	448,315	458,292
設備関係支出	230,749	206,970
資産運用支出	1,000,000	1,000,000
その他の支出	2,280,651	2,275,715
法人本部費配賦額	416,407	416,282
資金支出調整勘定	△295,477	△282,235
次年度繰越支払資金	30,544,091	31,178,657
支出の部合計	45,675,230	45,799,654

収入の部

科目	予算額	決算額
学生納付金収入	10,922,147	10,911,639
（授業料）	(7,605,352)	(7,610,316)
（入学金）	(1,152,060)	(1,152,060)
（実験実習料）	(104,762)	(87,882)
（教育実習料）	(4,190)	(4,164)
（施設設備費）	(2,055,783)	(2,057,217)
手数料収入	746,952	721,206
（入学検定料）	(640,278)	(605,907)
（その他の手数料）	(106,674)	(115,299)
寄付金収入	229,014	227,385
補助金収入	1,207,124	1,216,573
資産運用収入	92,579	139,449
資産売却収入	25	38
事業収入	205,557	194,558
雑収入	331,040	412,096
借入金収入	0	0
前受金収入	2,353,081	2,393,346
その他の収入	2,260,704	2,303,732
資金収入調整勘定	△2,746,887	△2,794,262
前年度繰越支払資金	30,073,894	30,073,894
収入の部合計	45,675,230	45,799,654

（注）予算額は補正予算額。

第2表　2011年度 消費収支計算書（2011年4月1日から2012年3月31日まで）（単位：千円）

消費支出の部

科目	予算額	決算額
人件費	7,185,745	7,052,637
教育研究経費	3,876,279	3,648,662
（内、減価償却額）	(973,000)	(985,700)
管理経費	965,328	924,682
（内、減価償却額）	(123,000)	(102,035)
借入金等利息	60,597	60,593
資産処分差額	512,750	512,774
徴収不能引当金繰入額	650	0
法人本部費配賦額	398,446	398,321
消費支出の部合計	12,999,795	12,597,669
当年度消費収入(△支出)超過額	△741,931	△209,128
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	2,492,557	2,492,557
基本金取崩額	1,070,106	1,055,538
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	2,820,732	3,338,967

消費収入の部

科目	予算額	決算額
学生納付金	10,922,147	10,911,639
手数料	746,952	721,206
寄付金	231,014	230,492
補助金	1,207,124	1,216,573
資産運用収入	92,579	139,449
資産売却差額	1	1
事業収入	205,557	194,558
雑収入	382,471	465,636
帰属収入合計	13,787,845	13,879,554
基本金組入額合計	△1,529,981	△1,491,013
消費収入の部合計	12,257,864	12,388,541

（注）予算額は補正予算額。

（注）予算額は補正予算額。

第3表　貸借対照表（2012年3月31日現在）（単位：千円）

科目	2011年度末	2010年度末	増減
資産の部			
固定資産	31,861,497	31,772,547	88,950
有形固定資産	26,308,002	27,256,134	△948,132
土地	2,990,031	2,876,566	113,465
建物	16,175,913	16,991,968	△816,055
構築物	634,294	700,672	△66,378
教育研究用機器備品	451,038	521,716	△70,678
その他の機器備品	16,781	20,428	△3,647
図書	6,018,466	6,129,790	△111,324
車両	7,619	14,994	△7,375
建設仮勘定	13,860	0	13,860
その他の固定資産	5,553,495	4,516,413	1,037,082
電話加入権	6,301	6,301	0
施設利用権	2,171	2,171	0
長期貸付金	270,099	259,059	11,040
差入保証金	440	8,390	△7,950
ソフトウェア	251,814	1,792	250,022
退職給与引当特定資産	140,000	140,000	0
南山大学名古屋C施設設備整備資金	3,282,670	2,582,670	700,000
南山大学瀬戸C施設設備整備資金	1,600,000	1,300,000	300,000
ソフトウェア仮勘定	0	216,030	△216,030
流動資産	31,569,348	30,423,651	1,145,697
現金預金	31,178,657	30,073,894	1,104,763
未収入金	327,196	278,420	48,776
立替金	1,411	428	983
前払金	59,550	68,281	△8,731
貯蔵品	2,534	2,628	△94
資産の部合計	63,430,845	62,196,198	1,234,647

科目	2011年度末	2010年度末	増減
負債の部			
固定負債	5,156,707	5,230,223	△73,516
長期借入金	3,113,220	3,210,000	△96,780
退職給与引当金	1,806,639	1,770,850	35,789
長期預り金	229,167	236,270	△7,103
長期未払金	7,681	13,103	△5,422
流動負債	3,120,902	3,094,624	26,278
短期借入金	96,780	30,000	66,780
未払金	219,436	219,573	△137
前受金	2,393,346	2,468,166	△74,820
預り金	411,340	376,885	34,455
負債の部合計	8,277,609	8,324,847	△47,238
基本金の部			
第1号基本金	39,903,859	40,497,437	△593,578
第2号基本金	4,882,670	3,882,670	1,000,000
第3号基本金	6,183,340	6,170,687	12,653
第4号基本金	844,400	828,000	16,400
基本金の部合計	51,814,269	51,378,794	435,475
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	3,338,967	2,492,557	846,410
消費収支差額の部合計	3,338,967	2,492,557	846,410
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	63,430,845	62,196,198	1,234,647

第4表　財務比率

消費収支関連

比率	計算式	南山大学 2009年度	南山大学 2010年度	南山大学 2011年度	他大学 2010年度	評価
人件費比率	人件費／帰属収入	49.3％	50.4％	50.8％	52.8％	↓
人件費依存率	人件費／学生納入金	63.2％	63.7％	64.6％	64.1％	↓
教育研究経費比率	教育研究経費／帰属収入	26.1％	26.4％	26.3％	30.9％	↑
管理経費比率	管理経費／帰属収入	6.7％	6.9％	6.7％	8.2％	↓
借入金等利息比率	借入金等利息／帰属収入	0.1％	0.2％	0.4％	0.3％	↓
学生生徒等納付金比率	学生納入金／帰属収入	77.9％	79.2％	78.6％	82.4％	↑
補助金比率	補助金／帰属収入	8.9％	8.7％	8.8％	8.3％	↑
基本金組入率	基本金組入額／帰属収入	7.7％	14.9％	10.7％	10.3％	↑
減価償却費比率	減価償却額／消費支出	8.3％	8.8％	8.6％	11.2％	～

帰属収入に対する比率

比率	南山大学（2011年度）	他大学文他複数学部（2010年度）
人件費	50.8％	52.8％
教育研究経費	26.3％	30.9％
管理経費	6.7％	8.2％
その他の消費支出額	7.0％	2.1％
基本金組入額＋消費収支差額	9.2％	6.0％

貸借対照表関連

比率	計算式	南山大学 2010年度	南山大学 2011年度	他大学 2010年度	評価
自己資金構成比率	自己資金／総資金	86.6％	87.0％	87.2％	↑
消費収支差額構成比率	消費収支差額／総資金	4.0％	5.3％	△9.3％	↑
流動比率（※）	流動資産／流動負債	783.7％	813.4％	236.6％	↑
減価償却比率	減価償却累計額／減価償却資産取得価額	47.0％	48.4％	45.0％	～
総負債比率	総負債／総資産	13.4％	13.0％	12.8％	↓
負債比率	総負債／自己資金	15.5％	15.0％	14.7％	↓

（※）南山大学の流動比率は流動資産から第3号基本金額を差し引いた額を分子とした。

（注）他大学の数値は、日本私立学校振興・共済事業団平成23年度版「今日の私学財政」より、消費収支関連については文他複数学部の大学部門の平均を、貸借対照表関連は文他複数学部を有する大学法人全体の平均をそれぞれ掲載した。評価は、それぞれの大学の特殊性があり一概にはいえないが、一般的には「↑」は数値が高い方がよく、「↓」は数値が低い方がよく、「～」はどちらともいえないとされている。
自己資金＝基本金+消費収支差額　総資金＝負債+基本金+消費収支差額　総負債＝固定負債+流動負債

第5表　2012年度 資金収支予算書（2012年4月1日から2013年3月31日まで）（単位：千円）

支出の部

科目	予算額
人件費支出	7,198,415
（教員人件費）	(5,007,436)
（職員人件費）	(1,696,979)
（退職金）	(494,000)
教育研究経費支出	2,767,920
管理経費支出	754,345
借入金等利息支出	60,399
借入金等返済支出	96,780
施設関係支出	241,332
設備関係支出	231,199
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	2,125,376
予備費	27,277
法人本部費配賦額	512,052
資金支出調整勘定	△290,201
次年度繰越支払資金	31,153,556
支出の部合計	45,878,450

収入の部

科目	予算額
学生納付金収入	10,771,858
（授業料）	(7,485,876)
（入学金）	(1,152,120)
（実験実習料）	(115,717)
（教育実習料）	(4,819)
（施設設備費）	(2,013,326)
手数料収入	818,378
（入学検定料）	(708,920)
（その他の手数料）	(109,458)
寄付金収入	198,690
補助金収入	1,179,614
資産運用収入	59,221
資産売却収入	30
事業収入	207,468
雑収入	377,375
借入金収入	0
前受金収入	2,351,748
その他の収入	2,123,780
資金収入調整勘定	△2,753,803
前年度繰越支払資金	30,544,091
収入の部合計	45,878,450

第6表　2012年度 消費収支予算書（2012年4月1日から2013年3月31日まで）（単位：千円）

消費支出の部

科目	予算額
人件費	7,440,985
教育研究経費	3,683,070
（内、減価償却額）	(915,150)
管理経費	867,810
（内、減価償却額）	(113,450)
借入金等利息	60,399
資産処分差額	28,000
徴収不能引当金繰入額・徴収不能額	0
法人本部費配賦額	494,091
予備費	27,277
消費支出の部合計	12,601,632
当年度消費収入(△支出)超過額	△312,147
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	2,820,732
基本金取崩額	0
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	2,508,585

消費収入の部

科目	予算額
学生納付金	10,771,858
手数料	818,378
寄付金	199,690
補助金	1,179,614
資産運用収入	59,221
資産売却差額	1
事業収入	207,468
雑収入	402,555
帰属収入合計	13,638,785
基本金組入額合計	△1,349,300
消費収入の部合計	12,289,485